令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 山﨑　眞紀子

研究課題名	渡航経験作家の作品研究―異国体験の中での「日本近現代文学」
研究目的及び研究概要	明治期以降の日本文学者の中には、狭い日本の中に居続けるのではなく、渡航し、おもに西洋文化、歴史、言語、文学世界の構築方法を学んでいった作家がいる。明治期から現代まで渡航経験を持つ作家に注目し、日本近現代文学史の流れを捉えていく研究を今年も継続した。これはライフワークとして一貫して行っているテーマである。令和4年度は、 ①田村俊子研究　②村上春樹研究　③須賀敦子研究を行った。 研究方法としては、作家研究を中心に、彼らが訪れた訪問地の文化を学び、彼らが使用した資料調査や記した作品群を通して、渡航経験がどのような文学的功績を残したのか考察した。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	①は令和4年6月18日（土）13時～18時「昭和文学会　春季大会　特集　地平線を越えて―トランスボーダーの日本文学」において「田村俊子の二十五年―中国語雑誌『女声』編集長・左俊芝としての終焉」とのタイトルの下で研究発表を行った。 本発表は自らが所属している学会であり、依頼発表であり、自身の発表後は登壇者3名とディスカッサントとのシンポジウムとなった。 ②は、村上春樹が1991年から約2年半ほど在外研究で身をおいたアメリカ・ニュージャージー州のプリンストン大学の図書館調査を行い、村上が身をおいた大学における資料環境を見た。特に『ねじまき鳥クロニクル』の資料を調査した。また、このプリンストン大学の後に身をおいたアメリカ・マサチューセッツ州のボストンにも赴き、彼が住んだハーバード大学周辺の居住空間の環境調査、同大学の図書館での資料調査（特に『若い読者のための短編小説案内』を書くにあたっての第三の新人についての書物、資料など）を行った。村上春樹が日本国内で人気絶頂でありながら、なぜアメリカに長い間滞在していたのか、その理由も同時に考察できた。 研究実績としては、山﨑眞紀子「村上春樹作品における〈食〉と〈性〉―初期作品と阪神淡路大地震以後の作品との比較を通して」（『FLORIENTALIAEAST ASIAN STUDIES SERIES: Food issues 食事Interdisciplinary Studies on Food inModern and Contemporary East Asia』,(University of Florence, Italy, 2021年, ＊実際に刊行されたのは2022年5月)全193頁のうち59頁～75頁所収：査読有 山﨑眞紀子「第9章『ノルウェイの森』誕生の地ローマ・トレコリレジデンス探訪記―村上春樹『遠い太鼓』から探るローマで誕生した意味」（小島基洋,山﨑眞紀子,高橋龍夫,横道誠編『我々の星のハルキ・ムラカミ文学―惑星的思考と日本的思考』（彩流社,2022年10月）全335頁のうち247～272頁所収 ③は、和田博文・王志松・高潔編『中国の都市の歴史的記憶』（勉誠出版、2022年9月）所収の「青島―翻訳都市、須賀敦子の青島」（176～189頁）にこれまでの研鑽を積んだ須賀敦子の研究成果をまとめた。須賀敦子の文学的方法とは、翻訳を通じて日本近代文学の文体を摂取し、自己の文体を確立していったと私は考えているのだが、この成果物で、その方法の一端を論じた。